

所 管 事 務 調 査 報 告

平成 2 4 年 6 月 1 9 日

薩摩川内市議会市民福祉委員会

委員長 森 永 靖 子

1 調査事項

- (1) 地域医療について
- (2) 健康増進について
- (3) 介護保険について

2 調査先

兵庫県西脇市、滋賀県守山市、岐阜県大垣市

3 調査日

5 月 9 日から 1 1 日まで（3 日間）

4 出席委員

森永委員長、小田原副委員長、川畑委員、江口委員、小牧委員、古里委員、石野田委員、井上委員、徳永委員

5 調査目的

医師不足に陥った市立病院を支援する地域の取組、市民が健康で生きがいを持ちながら「住みやすさ日本一」を実感できるまちを目指して策定した行動プラン及び介護保険事業で制度化された 2 4 時間定期巡回型訪問サービス事業のモデル事例を調査する。

6 調査概要

(1) 地域医療再生に向けた取組（兵庫県西脇市）

市立西脇病院は、昭和 2 6 年 3 月に開設され、新病棟が平成 2 1 年 1 1 月に総事業費約 1 5 0 億円をかけて完成し、診療科目 1 8 科、病床 3 2 0 床で運営されている西脇市及び周辺地域の拠点病院である。

平成 1 6 年度から始まった新臨床研修制度の影響により、同病院においても、医師不足が生じた。平成 1 6 年度に 4 9 人いた勤務医が、平成 2 0 年度には 3 7 人まで減少しており、小児科については平成 1 9 年に医師が一人となり、入院診療ができなくなる状況に陥った。

このような現状を憂慮して、母親たちが「西脇病院小児科を守る会」を発足させ、医療機関の適正受診に向けた啓発活動を行うとともに勉強会を開催した。勉強会では、病気に対する知識や対処方法などを学び、その結果、小児救急に関する情報をまとめた冊子を、地元医師会の監修を受けながら作成することとなった。現在、この冊子は、乳幼児健康診査や各種講演会などで配布されている。

「西脇病院小児科を守る会」の活動をきっかけに、現在では、市民・医師会・行政が一体となった地域医療再生に向けた取組が行われている。その一つとして、西脇病院応援基金の設置がある。これは、西脇市商業連合会が発

行する商品券の売上の一部を財源に基金を創設し、西脇病院に着任する研修医への支援金を基金から支給するものである。また、ボランティアグループによる食事の差し入れなどの支援活動も盛んである。さらに、地域医療を守り支える気運を醸成するため、市民フォーラムや医療講演会も定期的に開催されている。

このような取組により、西脇病院では、平成２０年度と比較して、勤務医と研修医がそれぞれ５人ずつ増えるなど医療体制は徐々に充実してきている。

(2) すこやかまちづくり行動プラン（滋賀県守山市）

守山市の高齢化率は約１７％と、全国平均の２３％、滋賀県平均の２１％よりも低く、人口も年々増加している。

しかしながら、守山市においても、高齢者は増加し、平成３２年には高齢化率が２１％を超え、医療費や介護給付費も増える見込みである。そのため、高齢者が医療や介護を必要とせず、市民が健康で生きがいを持って暮らしていくために、「すこやかまちづくり行動プラン」を策定した。このプランは平成２３年度からの５箇年計画で、男女の健康寿命を滋賀県第１位にすること、市民が守山市を住みやすいまちと思う割合を８０％にすることを目標に、「健康づくり」、「いきがいくづくり」、「在宅支援」の分野において市民と市が協働で取り組む行動内容を定めている。

このうち、平成２４年度からの取組に「すこやかチャレンジ制度」がある。これは、２０歳以上の市民が運動や食事に関する取組を達成した場合や健康診査や健康に関する講座・イベントに参加した場合にポイントを付与するものである。貯まったポイントは、市内の登録店舗で利用できる商品券や公共施設の利用券と交換することができ、市内の保育園、幼稚園、小・中学校、自治会にポイントを寄付することもできる。

さらに、守山市では、医療費や介護給付費を増やさないよう、医療機関や各施設との連携体制を構築しながら、在宅医療・在宅看取りの普及・推進を図っている。

(3) ２４時間定期巡回型訪問サービス事業（岐阜県大垣市）

本年４月に、介護保険制度が改正されたことに伴い、２４時間定期巡回型訪問サービス事業を行うことができるようになったが、大垣市では、平成２２年度から、市内３事業所においてモデル事業を実施している。

２４時間定期巡回型訪問サービス事業は、２４時間対応で、ヘルパーなどが食事・排泄・更衣・服薬等を介助するもので、定期巡回サービスと随時対応サービスに分類される。大垣市では、両サービスにおいて昼間・夜間早朝・深夜ごとに単価を定め、高齢者と４０歳以上の障害者を対象としていた。

定期巡回サービスの利用実績は、平成２２年度は利用者数４６人、利用回数１，３５４回で、平成２３年度は利用者数２９１人、利用回数１０，５０２回と増加している。ただし、利用者は全て高齢者であり、随時対応サービスの実績はなかった。

大垣市では、利用者が食事、排泄の介助、服薬指導などのサービスを定期的に受けることで、規則正しい生活を送れるようになり、介護者の負担が軽減されたとのことであった。なお、在宅で生活するためには、24時間定期巡回型訪問サービス事業だけでは不十分で、他の介護サービスを併用することも必要であるとのことであった。

7 所感

- (1) 西脇病院は、地域ぐるみの支援により医師不足という危機から再生したが、離島を有する本市においても、地域医療の充実が重要課題であることから、同病院の事例は参考になる。医療体制を守っていくためには、市民の理解と市全体での取組が重要であり、その気運醸成が大切であると再認識した。
- (2) 守山市は、健康寿命を延ばすために、「すこやかチャレンジ制度」というポイント制度を設けて市民の行動を促す取組を行っているが、市民の健康づくりを進めるためには、このようなユニークな仕掛けづくりも必要であると考えられる。
- (3) 本市においても検討が進められている24時間定期巡回型訪問サービス事業は、利用しやすい料金を設定しなければならないが、事業所にとっては24時間体制を確保する必要がある、採算性に課題が残ることから、利用希望者の把握や事業所との調整が必要であると考えられる。